

令和3年7月1日

受験生の皆様  
関係各位

三重大学長 伊藤 正明

令和3年度一般選抜（前期日程）国語②における不適切な出題について（お詫び）

令和3年2月25日（木）に実施しました令和3年度一般選抜（前期日程）国語②において不適切な出題があることが判明しました。

受験生の皆様、ご家族をはじめ関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、今後このようなことがないよう、再発防止に努めてまいります。

記

1. 対象入試の概要

- (1) 対象入試区分：令和3年度一般選抜前期日程
- (2) 対象実施日：令和3年2月25日（木）
- (3) 合格発表日：令和3年3月9日（火）10時頃
- (4) 対象学部：教育学部（音楽教育，美術教育，保健体育コースを除く全コース）  
医学部看護学科
- (5) 試験教科：国語（選択）
- (6) 対象科目受験者数：教育学部 533名（募集人員133名）  
医学部看護学科 40名（募集人員52名）

2. 内容

大問3において、「後鳥羽上皇」と記すところを「後白河法皇」と記載した。

13世紀（1201年－1300年）

〔誤〕後白河法皇（1127年－1192年）

〔正〕後鳥羽上皇（1180年－1239年）

問題：別紙のとおり

3. 経緯

大学入試問題集を刊行する出版社より指摘を受け、出題担当教員にて検討した結果、不適切な問題であることが確認されました。

4. 対応

史実との整合性はないものの、引用文の2重傍線部の主語を問う問題であることから、解答するにあたり歴史的背景に関する知識は必要とせず、影響がなかったと判断できることから特段の措置は講じません。

5. 再発防止策

出題及び点検業務の際に、史実との整合性についても、出題に至るまでに使用した資料を複数人により確認します。

【本件に関する連絡先】

三重大学学務部入試チーム

電話 059-231-9063

（平日 8:30～17:15）

令和三年度学力検査問題

国語 ② (教育学部・医学部看護学科)前期日程

(問題紙 一〜二十ページ 別紙解答用紙枚数 一枚)

解答時間 一〇〇分

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、本冊子のページ数は右に示したとおりである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがある場合は申し出ること。
- 三、解答はすべて別紙解答用紙のそれぞれの解答欄に記入すること。
- 四、解答用紙の指定された欄(二箇所)に、忘れずに本学の受験番号を記入すること。
- 五、試験場内で配布された問題冊子は試験終了後持ち帰ること。

次の二つの文章は、いずれも摂津国の著名な歌枕「長柄の橋」に関するものである。Aは十二世紀初めに伯の母という女性歌人が仏像供養を行った際の説話、Bは十三世紀初めに源家長が後白河法皇の供をして橋の跡を通りかかった場面の記事である。

これらを読んで、後の設問に答えなさい。（\*は本文の後に注があることを示す。また設問の都合で、表記等を変えたところがある。）

A 今は昔、伯の母、仏供養しけり。永縁僧正を請じて、様々の物どもを奉るなかに、紫の薄様に包みたるものあり。あけて見れば、

朽ちにける長柄の橋の橋柱法のためにも渡しつるかな

長柄の橋の切れなりけり。

〔宇治拾遺物語〕より

B 渡辺の橋に行き違ふ駒の足音おどろおどろしく踏みならし、船呼ばふ声々も耳かしがましければと、御前の辺は何となくしめやかなるに、「昔の長柄の橋とかやは此の渡りなりけんかし。ただ名ばかりを聞きわたるに、跡をだに見てしがな」と思しめしたり。「いづくをさしてか見えむとすべき」など、かつは笑ひ申しあへり。

御前に少将雅経候ふが、「その橋柱の切れは持ちて候ふものを」と申す。京にては急ぎまゐらすべき由仰せあり。「但し朽ちたる木の端に侍り。何ばかりのしるしにかは、さとも思しめすべき」など申しあへり。「是は、此のわたりの住人滝口盛房と申すおのこの伝へ持ちて侍りしなり。それが先祖に侍りける者、この川の辺を賤しき船に乗りて渡り侍りけるに、船にこたへて、船にはかに動かず侍りければ、人を下ろして水底を探らせけるに、掘り出だせるなり。細かに見侍りければ、中に黒鉄の芯立てて、柱のたたずまひの姿なり。さればよと思ひあはせて、取りて今に伝へたりける」と申す。

〔源家長日記〕より

〔注〕 A

\*伯の母〓神祇伯康資王の母。十二世紀初めころ没。『金葉和歌集』などに入集。

\*永縁僧正〓興福寺の僧。和歌にも秀でた。

\*薄様〓和紙の一種。和歌を書き写したり、物を包んだりするのに使った。

\*法〓ここでは仏法のこと。仏陀ぶつだが説いた真理、教え。

B

\*渡辺〓現在の大阪府の地名。

\*御前〓後白河法皇のお近く

\*さして〓目あてとして

\*船にこたへて〓船に手応えがあつて

\*柱のたたずまひ〓柱の形をした

問一 二重波線部「なり」と文法的に同じものを、波線部①～⑥の中からすべて選び、その番号を書きなさい。

問二 二重傍線部 a「思しめし」・ b「まるらす」・ c「見」について、それぞれの動作主体(主語)を、記号で答えなさい。

ア 貴族たち

イ 後白河法皇

ウ Bの作者(源家長)

エ 少将雅経

オ 滝口盛房

カ 滝口盛房の先祖

問三 傍線部「ただ名ばかりを聞きわたるに、跡をだに見てしがな」を現代語訳しなさい。

問四 AとBの文章を対照すると、百年ほどの間に、「長柄の橋」の切れ端は、価値がどのように変化したと考えられるか。ど

のような人々にとつての価値かがわかるように、六〇字以内で説明しなさい。